

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート
(2023年2月)

- 研究について

2月に入り、修士学位審査最終試験も終わり、他のレポートも全て終了しましたが、結果が出るのは3月なので、まだ心配しています。

口頭発表では、教授が私の論文に書かれている特定のパラグラフやセンテンスに対して非常に具体的な質問をしたため、すべての質問に答える準備が十分でないため、期待していたほどにはうまくいきませんでした。しかし、このことで改善すべき論文の弱点を知ることができたので、最近はその部分を勉強しています。

学習環境内のすべてのソーシャライザーと親密な関係を持つことは、グループの団結力を促進します。学習者が自信のない分野でも安心して挑戦できる環境を作ることができます。ソーシャルライザーには教師も含まれるが、教師と親密な関係を持つことは、地域の風習により、他の地域よりも難しいかもしれません。日本の風習の中には、社会的な役割や個人との関係で人を分類する傾向があります。その一例として、「ウチとソト」や「オモテとウラ」という考え方があり、コミュニティの中で一定の行動を取ることが期待されています。ウチとソトという概念で見ると、教師と学生の関係は、その社会的役割の違いから、あまり近すぎることは許されず、社会の中で不平等な地位にあるため、一定の権威と敬意が与えられることとなります。例え両者の関係が親密であっても、人前ではある行為や言葉を使わなければならないという風習があります。従って、地域の風習や慣習は、学習者が新しい言語や文化を学ぶための「安全な環境」を作る上で、潜在的な障害となる可能性があります。

- 生活について

12月、1月の繁忙期に比べ、2月はかなりペースが遅く、急にペースが遅くなったため、逆に、イライラしてしまい、何か忘れたような気がします。忙しい時期にはやりたいことがたくさんあったけれど、今は時間があってもやる気が起きません。人は、ないもの、できないものばかりを大切にすることが、やりたいことができると、すべてが淡白に思ってしまうのでしょうか。

最近、花粉症がひどくなってきて、薬を飲まなければならなくなりました。これ以上ひどくならないことを願っています。